

企業サポーターへの登録のお願い

未来を担う子どもたちの人材育成を進めるため、財団の事業を応援していただく「企業サポーター」を募集しています。

企業サポーターに登録していただいた企業は、人材育成を積極的に応援する企業として、財団から広くPRさせていただきます。

登録方法などは、お気軽に財団までお問い合わせください。

※当財団へのご寄附は一般の寄附金とは別枠で損金に算入できます。

人材育成事業へご支援をお願いします



財団に対する毎年度一定額の寄附 (年額1口1万円から)



人材育成事業で使用する物品やサービスの無償提供



タイアップ商品を販売し、その売上金額の一部を財団に対し寄附

企業サポーターの皆様 (令和4年4月1日現在/登録順)

株式会社トミープランニング 様
 コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 様
 FVジャパン株式会社 様
 米百俵財団支援自動販売機設置者 様
 株式会社瑞花 様
 株式会社新潟味のれん本舗 様
 株式会社原信 様
 株式会社 JOINT CREW 様
 株式会社夢えちご 様
 渡長建設株式会社 様
 有限会社ドライビル管理 様
 有限会社フーズ・サプライ・イタミ 様

～タイアップ商品の一部をご紹介します～



皆様のご寄附が、長岡の子どもの未来につながります

米百俵財団の事業は、ご寄附によって成り立っています。

ご寄附は、長岡の子どもをはじめとした人材育成事業に活用させていただきます。

ご支援いただける方は、「寄附申出書」をお送りしますので、財団事務局にご連絡ください。

※本財団へのご寄附は、所得税、個人住民税、相続税で税の優遇が受けられます。



米百俵財団概要

■ **名 称**
 公益財団法人長岡市米百俵財団

■ **事 務 所**
 長岡市地方創生推進部ミライ工長岡開設準備室内
 〒940-0062 新潟県長岡市大手通2-6
 TEL 0258-86-6008 FAX 0258-86-6073
 メール kome100@city.nagaoka.lg.jp
 URL <https://kome100.or.jp>

■ **理 事 長**
 水流 潤太郎

■ **沿 革**
 昭和62年1月14日 財団法人長岡市人材育成基金設立
 平成7年2月3日 財団法人長岡市米百俵財団に改称
 平成24年4月1日 公益財団法人へ移行
 (公益財団法人長岡市米百俵財団に改称)



HPIはこちら



米百俵の精神

「ひとづくりはまちづくり」

国が興るのも、滅びるのも、
 まちが栄えるのも、衰えるのも、
 食えないからこそ学校を建て、
 人物を養成するのだ。

山本有三「米百俵」から



「育英こそ百年の大計である」と説いた郷土の先覚者・小林虎三郎の「米百俵」の思想は、長岡人の心のよりどころであり、大きな誇りです。長岡市米百俵財団は、この「米百俵」の精神を次代へ受け継ぎ、発展させるとともに、「新しい米百俵」と呼べる人材育成事業を展開し、長岡のみならず日本のイノベーションを支える人材や国際社会で活躍するグローバルな人材の育成に取り組んでいます。

財団の活動

大学・専門学校進学者への奨学金の貸付け

長岡市出身の大学・専門学校進学者を対象にした奨学金の貸付けを行っています。

高校留学奨学金給付事業

海外に留学する意欲のある高校生を対象に、奨学金を給付しています。



中小企業従業員・農業者派遣研修の助成

市内に事業所を有する中小企業で働く方や、市内に住んでいる農業者の方の派遣研修の経費を助成しています。

中学生の海外体験支援

長岡市国際交流協会と連携し、市の姉妹都市(米国フォートワース市、ホノルル市)への中学生の海外派遣を支援しています。



イノベーションを支える人材育成

ながおか・若者・しごと機構と連携し、小中学生を対象に、デジタルテクノロジーを体験するイベント等を開催しています。



オール長岡で支える学びの場「米百俵未来塾」

人材育成に賛同する300以上の企業、団体、市民から寄せられた協賛金をもとに令和元年に開校。

人材育成に取り組む市内の団体と連携し、「米百俵」の精神をはじめ、芸術、スポーツなど、多面的な連続講座により、子どもたちの視野を広げ、生き抜く力を育みます。



米百俵デー市民の集いの開催

国漢学校新校舎開校の日(明治3年6月15日)にちなみ6月15日を米百俵デーに制定。毎年6月に「米百俵」の精神を普及、発信するため「米百俵デー市民の集い」を開催しています。



米百俵関連書籍等の頒布

郷土に脈々と生きてきた、「米百俵」の精神を広く子どもたちや一般の方に知っていただくため、米百俵関連書籍等を頒布しています。



米百俵の故事

戊辰戦争(1868年)で焦土と化した長岡藩に、支藩の三根山藩(現在の新潟市西蒲区峰岡)から見舞いとして百俵の米が送られてきた。窮乏を極めていた藩士は米が分配されるのを一日千秋の思いで待った。しかし、藩の大参事・小林虎三郎は、この米百俵は文武両道に必要な書籍、器具の購入にあてるとして、米を売却した代金を国漢学校建設の資金に注ぎ込んだ。国漢学校には洋学局、医学局も設置され、藩士の子弟だけではなく町民や農民の子供の入学も許された。ここに長岡の近代教育の土台が築かれ、後年、ここから新生日本を背負う多くの人物が輩出された。この「米百俵」の故事は、文豪・山本有三の同名の戯曲によって広く知られるようになり、「国が興るのも、滅びるのも、まちが栄えるのも、衰えるのも、ことごとく人にある。食えないからこそ学校を建て、人物を養成するのだ」、「この百俵は、今でこそただの百俵だが、後年には、一万俵になるか百万俵になるか、はかり知れないものがある」という小林虎三郎の思想は、多くの人に感動を与えた。



国漢学校の図(「懐旧雑誌」下)



小林虎三郎(1828~1877)

■ 小林虎三郎・プロフィール

文政11年(1828年)8月18日、長岡藩士小林又兵衛の子として生まれる。藩校崇徳館で学び、若くして助教を務めた。23歳の時、藩主の命で江戸に遊学、兵学と洋学で有名な佐久間象山の門下に入り、長州の吉田寅次郎(松陰)とともに「二虎」と称せられる。象山に「天下、国家の政治を行う者は、吉田であるが、わが子を託して教育してもらう者は小林のみである」と言わせるほど、虎三郎は教育者であった。教育の重要性を説く虎三郎の思想は、帰郷後に著した「興学私議」に詳しくまとめられている。長岡が戊辰戦争に敗れた翌年の明治2年に、焼け残った昌福寺の本堂を借りて国漢学校を開校、同年に文武総督、さらに大参事に推挙される。米百俵が送られてきたのは、その翌年のことである。虎三郎は明治4年、自ら「病翁」と名を改めているように、終生を病にさいなまれた。明治10年、湯治先の伊香保で熱病にかかり、8月に弟雄七郎宅で死去。享年50歳であった。虎三郎のお墓は興国寺にあり、弟雄七郎とともに眠っている。